

「味方なのである」

2014年09月30日

マルコによる福音書9章38節～41節。ヨハネがイエスに言った。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちに従わないので、やめさせようと思いました。」イエスは言われた。「やめさせてはならない。わたしの名を使って奇跡を行い、そのすぐ後で、わたしの悪口は言えまい。わたしたちに逆らわない者は、わたしたちの味方なのである。はっきり言うておく。キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。」

主イエスは、弟子たちを二人一組にして宣教に遣わした。彼らは神からの権能を受けていたので、力強い働きができた。ヨハネは宣教から帰って来て報告した。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちに従わないので、やめさせようと思いました。」彼は主イエスの弟子であることを誇りにしていた。自分たちの働きで悪霊を追放し、民衆から喜ばれていたからである。宣教の途中、主イエスの名を使って悪霊を追い出す人を見たので、自分たちの仲間に加わるように勧めたが、拒否された。そこで、従わないのなら、活動を止めよと厳しく叱責した。彼は、兄ヤコブと共に「ボアネルゲス（雷の子ら）」というあだ名がつけられている。気が短く、すぐにゴロゴロと怒り出す気性であった。その気性が表れ、激しい糾弾の言葉を投げかけた。それを正当とし、誇らしげに報告した。すると、主イエスは「やめさせてはならない」、なぜなら、私の名を使う者は私の悪口は言わない、逆らわない者は味方であるからだと言われた。ヨハネの不寛容な態度をたしなめられたのである。

さて、政権交代を可能にしようと、二大政党を作り出すために小選挙区制が導入された。ところが、一強（自民党）八弱（野党）の政治状況になった。自民党は弱小野党を恐れる必要がなくなった。自民党内にも、政権に対する反対意見があるだろうが、小選挙区制なので立候補者に指名されないことを恐れて発言できなくなっている。安倍政権はしたい放題であるが、国民にとっては悲劇である。野党は小さな違いをあげつらい、自分たちの正当性を主張し、分裂に分裂を重ねている。政権与党を喜ばせるだけである。国民の命を守り、平和を実現するために、大同団結する野党に成長してほしいと思う。そして、世の中においても、殊に、左翼を名乗る人々の間では、本来なら仲間である人を厳しく批判し、逆に向こう側に追いやるようなことをしているのではないか。違いに目くじらを立て、いきり立つのではなく、一致点を探し、共にあることを模索することが大切であろう。主張の違いはあるが、意見の違いとして認め、相手の人格まで否定することは慎むべきである。

「不寛容」になっている最近の世相が気がかりである。自分も他者も受け入れられない悲しみが忍耐力をなくし、自分の思いを暴走させ、人に危害を加える悲劇が、多々起っている。他者否定の心の荒廃がいやされ、互いを受け入れ合う寛容な社会であってほしい。

主イエスは、逆らわない者は味方であるとヨハネの不寛容をたしなめ、自分の名を使って、人々が救われることを喜ばれた。主イエスは、逆らう罪人のためにご自身を十字架に捧げられた。罪が赦され、神と和解し「共にある」福音を示されたのである。